

#### 4. 糖尿病患者の大腸内視鏡検査前処置の実態

医療法人 尾石内科消化器科医院

内視鏡技師 ○指宿 園子・梶塚加奈子  
看護師 徳 広子・山田 悦子  
管理栄養士 原賀いづみ  
臨床検査技師 松崎 由紀  
医師 尾石 弥生・尾石 樹泰

##### 【はじめに】

糖尿病患者は、弛緩性便秘を合併している場合が多く、一般的に非糖尿病患者と比べ、大腸内視鏡検査は前処置不良の印象を受ける。さらには、具体的に内視鏡検査の状況をデータ化し職員個々の認識を統一しておかなければ、患者対応が一律に行われず、満足な検査が得られないことにつながる。

今回、我々は過去に糖尿病患者が受けた大腸内視鏡検査の前処置の実態を調査して発表する。

##### 【対象と方法】

2016年4月から2016年12月までに当院外来で大腸内視鏡検査を行った344例のうち、糖尿病患者40例、非糖尿病患者304例。糖尿病患者は、平均年齢68.6歳、男女比31対9。非糖尿病患者は、平均年齢58.3歳、男女比127対177。ともに前日はエニマクリン<sup>®</sup>または低残渣食、前日夜の緩下剤はラキソベロン<sup>®</sup>液を1本飲用、検査当日はニフレック<sup>®</sup>配合内用剤を使用して前処置を行った。その後便状態によって浣腸120mlを医師が指示。便状態の評価は1番（茶色泥状）→2番（茶色水様）→3番（黄色混濁水様）→4番（黄色水様、便カス有）→5番（淡黄から透明、便カス無）を基本とし5番になった時点で前処置完了とした。

糖尿病患者・非糖尿病患者の以下を比較検討した。1. ニフレック<sup>®</sup>飲用後前処置完了までの所要時間、2. 排便回数、3. 浣腸施行率。

##### 【結果】

1. ニフレック<sup>®</sup>飲用後5番までの所要時間は、糖尿病患者5.5時間、非糖尿病患者4.5時間で糖尿病患者が長かった（ $p < 0.01$ ）。
2. ニフレック<sup>®</sup>飲用後5番までの排便回数は、糖尿病患者11.7回、非糖尿病患者13.5回で糖尿病患者が少なかった（ $p < 0.01$ ）。
3. 浣腸施行率は、糖尿病患者9例(23%)、非糖尿病患者32例(10%)で糖尿病患者に多かつ

た ( $p=0.028$ )。

### 【考察】

糖尿病自律神経障害の消化器機能異常として、胃不全麻痺や便秘が知られている。このような機能異常が、無自覚に潜行的に存在するため、今回の排便回数や前処置所要時間の延長の原因となったと考えられた。

今回の研究で我々は、1. 糖尿病患者への検査の事前説明をする際には、排便習慣を細かく聴取して、場合によっては数日前からの下剤使用もあり得る事や、前処置に時間を要す事を患者本人が理解できるよう指導する事、2. 検査当日は患者の排便申告だけを鵜呑みにせず、適宜進行状況を医師に報告し、早めに対応していく事が良好な前処置につながると考えた。

### 【結語】

糖尿病患者の大腸内視鏡検査前処置の実態を明らかにした。今後、当院の医療ニーズに応じた大腸内視鏡検査を継続する上で、今回の結果とスタッフ全員がカルテと看護記録を上手く活用し、前処置不良による検査時間延長・偶発症・患者の心理的・身体的負担が少なくなるように心がけたい。

【連絡先：〒811-2310 福岡県糟屋郡粕屋町花ヶ浦2-10-10 Tel 092-938-1900】